

氏名	松野 真
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	院博甲第18号
学位授与年月日	2019年3月18日
学位授与条件	学位規則第5条第2項及び第3項該当
学位論文題目	デートDVのリスク要因に関する研究
論文審査委員	主査 田中 速 東京成徳大学大学院 教授 副査 新井 邦二郎 東京成徳大学大学院 教授 田村 節子 東京成徳大学大学院 教授 西村 昭徳 東京成徳大学大学院 准教授

## 1. 論文概要：（1）目的，（2）方法，（3）結果及び考察

（1）目的：本研究は、デートDVの実態調査に基づき、DVとデートDVの差異及びデートDV加害経験者の特性について明らかにし、その上でデートDVの加害信念の歪みとデートDVとの関連を検討しながら、デートDVの認知的なプロセスについて明らかにすることを目的とした。さらには、今後展開されるデートDV加害者教育プログラムの可能性についても考察した。

（2）方法：主な研究方法は、大学生の男女を対象とした質問紙調査である。

（3）結果と考察：研究1では、加害経験頻度と被害経験頻度の性差では、男性においても被害経験をしている可能性が示唆され、デートDVの加害・被害の双方向性を支持する結果であった。なお加害・被害の双方向性は、特定のパートナー間に限定されず、これまで付き合いのあった者との間で、加害・被害を経験したという意味での双方向性も含む。

研究2は、デートDVの双方向性の観点から検討をおこない、デートDVの加害経験群にはデートDVの双方向性群と一方的なデートDV加害経験者群の2群があることが示唆された。また、この2群間では、性差による特徴と男女に共通する特徴が示された。今後展開されるデートDV加害者教育プログラムでは、2群間の性差の特徴や共通する特徴を踏まえ、デートDV加害者教育プログラムを実施する必要性が示唆された。

研究3では、デートDVの評価指標として、新たにデートDVの加害深刻度及びパートナーコントロールに関する質問紙の作成を試みた。また、これまでデートDVを身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力と分類したが、デートDV被害者の視点から評価した被害ダメージを用いることで、デートDVが「暴力」、「監視」、「性的強要」、「人格否定」、「不利益の強要」の5因子で構成されることが示唆された。

研究4では、「デートDV加害信念の歪み尺度」を作成した。デートDV加害信念の歪みが、「自己の絶対視」、「過剰な受容へのとらわれ」、「偏った攻撃観」、「女性本位のジェンダー観」、「男性本位のジェンダー観」の5下位尺度で構成されていることが示唆された。この結果によりデートDV加害経験者の加害信念の歪みの特徴を示すことができたとともに、一次予防や二次予防において、デートDVの加害経験者をスクリーニングする道具として利用し、三次予防へつなげる可能性が示唆された。

研究 5 では、付き合い経験あり群と付き合い経験なし群の性差を比較することで、デート DV の認知的プロセスを検討した。付き合いあり男性群は、「パートナーコントロールが強い→デート DV 加害信念の歪みが強くなる→デート DV」の経路 1 と、「パートナーコントロールが強い→デート DV」の経路 2 の 2 経路が示された。付き合いあり女性群では、男性と同様に経路 1 はみられたが、経路 2 は見られずに、新たに経路 3 として「パートナーコントロールが強い→デート DV 加害信念の歪みが強くなる→被害ダメージが低くなる→デート DV」が示された。

## 2. 評 価：

---

本研究は、まずデート DV の先行研究の検討のうえ本論文の研究目的を定めた。続いて研究 1 では、デート DV に関する調査を行い、デート DV を取り巻く実態を明らかにした。研究 2 では、デート DV の特性である「暴力の双方向性」の視点から DV とデート DV の差異を検討し、デート DV の加害経験のある者の特性を明らかにした。研究 3 では、その行為によって自分がどの程度傷つくのか（被害ダメージ）を指標にデート DV の暴力の構造について検討した。さらには、これまで主な評価基準であった加害経験頻度に加え、加害の「深刻度」を指標とした「加害深刻度質問紙」、デート DV の本質である支配・被支配を指標とした「パートナーコントロール質問紙」の作成を行った。研究 4 では、デート DV 加害者教育プログラム作成にあたり、デート DV を修正するために重要な要因となるデート DV 加害信念の歪みを取り上げ、デート DV 加害信念の歪み尺度を作成することで、デート DV 加害信念の歪みとデート DV の関連について検討した。最後の研究 5 では、研究 2 で用いた加害ダメージ、研究 3 で得たデート DV の因子構造及びパートナーコントロール質問紙、研究 3 で用いた被害ダメージ、研究 4 で得たデート DV 加害信念の歪み尺度をもとに、付き合い経験の有無の比較からデート DV の認知的なプロセスを明らかにした。

本研究は、社会福祉現場にて長く仕事をしていた筆者の経験をベースにデート DV について 10 年余りの年月をかけて作成されたものである。そこで、DV とデート DV との違い、デート DV の双方向性と性差、加害信念の歪み尺度の作成とデート DV に至る認知プロセスの解明など、デート DV 加害者教育に新たな示唆を得ることのできたことが評価できる。なお今後の課題として、三次予防の対象となるデート DV 加害者を対象にしながら、「暴力の双方向性」を含め臨床研究の枠組みの中でデート DV 加害者の特徴を検討すること、またデート DV と DV の連続性について検討し、暴力が双方向から一方向に移行する要因について検討することなどが挙げられる。

## 3. 最終試験結果：

---

2019 年 2 月 9 日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

## 4. 結 論：

---

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2019 年 2 月 10 日